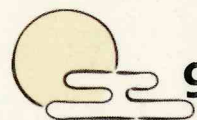


# 図書館だより



## 9・10月号

令和8年9月2日  
港区立青山中学校  
校長 佐々木 希久子  
学校司書 武田 優子  
土谷 蘭子  
三島 裕美  
図書館支援員 桑畑 恵美



九月十月のおすすめ本

2学期が始まりました。1・2年生の皆さん、部活動に学校の課題に充実した夏休みだったのではないのでしょうか。3年生の皆さん、来週のシンガポール修学旅行が楽しみです。ぜひお話を聞かせてください。

青山中学校図書館には夏休みの間に新しい本がたくさん届きました。すべて机の上に表紙が見えるように展示しています。また、9月の特別展示は『月』です。10月は皆さんに大人気の「映像化された本」を展示します。「読書週間」は10月27日～11月9日、読書の秋がやってきます。たくさん読んでくださいね！

夏休み特別貸出の返却期限は9月2日（水）です。  
まだ返却していない人はすぐに返却してください。  
9月2日からは通常の「3冊・2週間」のルールに戻りますので注意してください。

### 9月特別展示『月』

9月はお月見の季節です。日も短くなり、帰り道で秋の夜空をやさしく照らす月に出会えます。昔から人々は月を見上げ、物語を語り、歌を詠んできました。今月は「月」をテーマに、天文・科学の本から小説、絵本、日本の文化に関する本まで幅広く集めました。ぜひ手に取ってみてください。

### 10月特別展示『映像化された本』

映画やドラマ、アニメとして親しまれている作品の多くは、一冊の本から生まれています。10月は映像化された作品の原作本を多数展示します。映像で楽しんだ人も、気になる作品がある人も、原作ならではの魅力に触れてみませんか。同じ物語でも、本と映像では表現の仕方が違います。エンディングが変わっている場合もあります。読み比べて、新しい発見を楽しんでください。

### 『キーウの月』

ジャンニ・ロダーリ/作（講談社）



この本は、ウクライナ侵攻が始まった直後に発行された詩の絵本です。今もお、戦争が終わらない地域の人々に思いをはせる1冊でもあります。詩の中に『空を旅しながらみんなに光を届けます。』という一文があります。月の光が希望や平和をもたらす光として、世界中の子どもたちを照らしてくれたらいいな…と思います。皆さんも今年の秋は月を見上げ、この優しい光を浴びて、平和について考えてみてください。（三島）

### 『李陵・山月記 弟子・名人伝』 中島敦/著（新潮社）



『山月記』の「月」の描写はとても味わい深いです。皆さんにもこの文章を味わってほしくて選びました。孤独な主人公の「李陵」が人を捨て虎となり、夜ごと月をみつめて過去を悔やみ、苦しみ、葛藤する姿を描いたお話です。皆さんが高校生になったら国語の授業で習いますが、短いながらもとても印象的なお話です。青山中学校図書館にありますので一度手に取ってみてください。（武田）

### 『シャーロックホームズ全集！ 緋色の研究』 コナン＝ドイル/著 各務三郎/訳（偕成社）



二部構成の探偵小説です。事件解決までが描かれる第一部と、その背景となる第二部が哲学的に語られます。著者のC＝ドイルさんは英国出身。大学は医科を卒業されました。ところどころに理系の文章も現れます。古くから映画化もされていますが、書籍での完訳版は本格的です。美しいさし絵も印象に残ります。（土谷）

### 『君の臍臓をたべたい』 住野よる/著（双葉文庫）



病気で余命1年と宣告された明朗な性格の桜良。偶然そのことを知ってしまった目立たないクラスメイト春樹は桜良が書いた「死ぬまでにやりたいことリスト」を一緒に叶えていきます。重いテーマですが、二人の関わり方、高校生の明るく軽快な会話に引き込まれます。題名が衝撃的ですが、読み終えた後には、唯一無二の美しく切ない二人の思いを表現したものだと感じます。2017年に実写映画化、2018年にアニメ映画化。（桑畑）

## 名作まちがいさがし

『69 sixty nine』

村上龍



“僕”は自主制作の映画で、学年一の美少女を白馬に乗せて登場させたいと、無茶な思いつきを語ります。それを真剣に聞いていた仲間の山田は「白馬は無理だが、巨大な白い秋田犬なら近所にいる」と的を外れた提案をするのでした。

下の2枚の絵の違いを5か所見つけてください。

### 作品の概要・解説

“僕”と仲間たちが引き起こす騒動を描いた、爽快で笑いに満ちた自伝的青春小説です。

学生運動が盛んに行われ、時代を変えようとする若者たちのエネルギーに満ちていた、一九六九年。長崎県佐世保市に暮らす高校三年生の“僕”は音楽や映画にかぶれ、堅実な進学など考えられずにいました。

学年一の美少女を主演女優にスカウトして自主映画を制作したり、学校の屋上をバリケード封鎖したり、自らが考案したフェスティバルを実行するために奔走したり、一年間はあつという間に過ぎていきます。

作者の村上龍（一九五二年〜）は、一九七六年に芥川賞を受賞した『限りなく透明に近いブルー』でデビューして以来、サッカーや経済、社会問題など、時代ごとのさまざまな話題を積極的に取り入れ、多くの作品を著しています。また、自分の作品の映画監督や、テレビ番組の司会などでもマルチに活躍しています。

代表作には『コインロッカー・ベイビーズ』『希望の国のエクソダス』『13歳のハローワーク』などがあります。

おかえいなさい!

## シンガポールクイズに挑戦しよう

期間: 2026年9月16日(水)~9月30日(水)

本を借りた人が参加できる、シンガポールを学ぶ恒例のクイズイベントです。本を借りた人は図書委員に解答用紙をもらって、クイズの答えを記入し提出してください。図書委員がまるつけをします。

全問正解者には選べる景品(文房具等)を差し上げます。シンガポールで学んできた3年生はもちろん、1、2年生もシンガポールの知識を先取りできます。間違えても大丈夫! 期間中は何度でもチャレンジできます。

本を借りてシンガポールクイズに  
挑戦しよう! きっと  
全問正解できる!!

